

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
家庭	家庭基礎	2	1年 普通科・水産科

と 目 標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
教科書・副教材	家庭基礎 つながる暮らし 共に創る未来（教育図書） わくわくクッキング（教育図書） LIFE おとなガイド（教育図書） 家庭基礎 つながる暮らし 共に創る未 ワークシート（教育図書）	
評価の 観点 と配点	知識・技能 [40点]	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。
	思考・判断・表現 [40点]	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を発見し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身につけている。
	主体的に学習に向かう態度 [20点]	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとすると共に、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身につけている。
評価の方法	<p>◎上記評価の観点について、それぞれA・B・Cの3つの段階で評価します。</p> <p>【知識・技術（配点40点）】 定期試験50% 定期試験以外評価50% ※試験以外評価：各授業時課題（ワークシート等）・休業時課題（宿題） ・単元小テスト・発表・授業態度など <u>A：40～28点 B：27～12点 C：11点以下</u></p> <p>【思考・判断・表現（配点40点）】 定期試験50% 定期試験以外評価50% ※試験以外評価：各授業時課題（ワークシート等）・休業時課題（宿題） ・単元小テスト・授業ノート提出・発表・授業態度など <u>A：40～28点 B：27～12点 C：11点以下</u></p> <p>【主体的に学習に向かう態度（配点20点）】 定期試験以外評価100% ※試験以外評価：各授業時課題（ワークシート等）・休業時課題（宿題） ・単元小テスト・授業ノート提出・発表・授業態度など <u>A：20～13点 B：12～6点 C：5点以下</u></p>	

学習計画および評価方法 等

評価の観点：a（知識・技能） b（思考・判断・表現） c（主体的に学習に向かう態度）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点		
			a	b	c
4	ガイダンス	学習内容、評価の理解、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	○		○
5	生活設計（1） 青年期と家族	自分の将来について考えることができる。 青年期の5つの自立について理解し、職業労働の在り方への考えをまとめることができる。	○	○	○
	衣生活	家庭・家族と社会との関わりに関心をもつ。 衣服の機能や衣服ができるまでの過程を理解する。適切な被服管理ができるようになる。	○	○	○
6		これからの衣生活の在り方を考えようとしている。			
7		〈実習〉 小物製作・エプロン製作			
8	食生活	食事の役割や栄養素、食品の特徴を理解する。 食の安全・衛生について関心を持っている。	○	○	○
9		自分や家族のために献立を考え、楽しく食事しようとする。環境に配慮した食生活を考えられる。			
9		〈実習〉 調理実習（内容はその都度検討し決定）			
10	保育	子どもの発達・発育について理解する。 親や大人の役割や子育て環境について理解し、考えをまとめ自分事として学習に取り組もうとしている。	○	○	○
11	高齢期	高齢期の特徴を知り、高齢者福祉の現状と課題を理解し、地域の役割について考える。	○	○	
11	共生社会	共生社会の実現のために、社会の一員として何ができるか考える。			○
12	住生活	安全で快適な住生活について理解し、暮らしと地域の関連から、まちづくり参加の重要性を考える。	○	○	
1	経済計画	家計のしくみを理解する。	○		
2	消費生活	自立した消費者としての行動を考える。18歳で成人になるという自覚を持ち、未成年との違いを考える。	○	○	○
3	環境	環境問題について理解し、持続可能な社会のためにどう行動するか考える。	○	○	○
	生活設計（2）	・家庭基礎の学習を生かし、将来の生活に向けて目標をたて、自分らしい生活を設計することができる。		○	○

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
家庭	フードデザイン	4	3年 普通科 選択科目c
科目概要と目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。		
教科書・副教材	フードデザイン（教育図書）、 フードデザインワークノート（教育図書）		
評価の観点	関心・意欲・態度	食について関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	
	思考・判断・表現	食について見直し、生活課題を主体的に解決するために思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	
	技能	食に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。	
	知識・理解	食に関する基礎的・基本的な知識を総合的に身に付けている。	
評価の方法	<p>定期試験：1学期期末、2学期期末、学年末</p> <p>実習・授業態度：実習や実習への取り組み・態度、調理実習時身支度（実習着、清潔さ）など</p> <p>提出物：授業プリントの提出、製作物、調理プリント、課題など これらを4つの観点に沿って総合的に評価します。</p>		

学習計画および評価方法 等

評価の観点：a（関心・意欲・態度） b（思考・判断・表現） c（技能） d（知識・理解）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
4	<u>第3章献立と調理</u>	○季節や、行事、料理様式、対象などから具体的な食事テーマを設定し、栄養、嗜好、季節感、経済、環境などに配慮して、目的に応じた献立作成ができる。			○	
5	1 調理の基本					
	(1) 調理の目的	○日本料理、西洋料理、中国料理など代表的な料理様式について、それぞれの特徴や献立構成を理解できる。				○
	(2) 食べ物のおいしさ					
6	(3) 調理操作					
	(4) 食品の調理性	○様式別の食卓構成や食卓作法、 供給に伴うマナーを身につける。	○			
	2 献立の作成					
7	(1) 献立作成の留意点	○季節や行事、食事の目的などに 応じて食卓を演出する必要性を理				○
	(2) 献立作成					
	3 様式別の献立と調理・食卓作法					
	(1) 日本料理の特徴と献立・食事作法					

	<p>(2) 西洋料理の特徴と献立・食事作法</p> <p>(3) 中国料理の特徴と献立・食事作法</p> <p>4 テーブルコーディネート</p> <p>(1) 日本料理のテーブルコーディネート</p> <p>(2) 西洋料理のテーブルコーディネート</p> <p>(3) 基本的なサービスの方法</p>	<p>解できる。(食卓花、照明、色彩等)</p> <p>○食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や周囲の環境作りができ、食空間を演出する感性と表現力を養う。</p>							
8	<p><u>第4章調理実習</u></p> <p>1 日常食</p>	<p>○日常食、行事食などの調理に必要な知識と技術を習得する。</p>			○	○			
9	<p>【年間を通して実施】</p>	<p>○食品衛生と安全に十分配慮して、食品を適切に扱い、能率良くおいしく作ることができる。</p>			○				
10	<p>(1) 和風献立・料理(3h×6)</p>	<p>○配膳や食事のマナーを踏まえ、楽しく食事する工夫ができる。</p>			○				
11	<p>(2) 洋風献立・料理(3h×6)</p> <p>(3) 中国料理献立・料理(3h×6)</p> <p>2 その他</p>	<p>○調理実習に意欲的に取り組み、実践的な態度を身に付けようとしている。</p>			○				
12	<p>(1) 行事食 (3h×3)</p> <p>(2) エコクッキング(3h×2)</p>				○				
1	<p><u>第2章健康・栄養・食物</u></p> <p>1 健康に必要な栄養素</p> <p>(1) 炭水化物</p> <p>(2) 脂質</p> <p>(3) たんぱく質</p> <p>(4) ビタミン</p> <p>(5) 無機質、水、その他</p> <p>2 食品の成分と変化</p> <p>(1) 栄養素の吸収</p> <p>(2) 色、香り、味の成分</p> <p>(3) 安全性の向上</p> <p>3 食品の加工</p> <p>(1) 食品加工の方法と特徴</p> <p>(2) 保健機能食品と嗜好食品</p>	<p>○健康増進を図る観点から、栄養素の機能と代謝について理解できる。</p> <p>○栄養素を多く含む食品、効率よく利用するための調理法について理解できる。</p> <p>○各ライフステージの栄養特徴、食生活上の留意事項について基本的な知識を身につける。</p> <p>○摂取した食物が消化吸収され、排泄されるまでの仕組みの概要を理解できる。</p> <p>○食品の生産、流通、加工などの現状を理解し、様々な加工食品などから、目的に応じて適切に選択できる。</p>				○	○	○	○

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
家庭	子どもの発達と保育	4	2学年 普通科選択科目 a

科目概要と目標	<p>身近にいる子どもの心身の発達の特徴に関心を持ち、発達段階や個性に応じて、親や家族が子どもとどのように関わったらよいか、保育のありかたについて具体的に考える。</p> <p>乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育に関する知識と技術を学び、子どもの健全な成長を図る能力と態度を身につける。</p>		
教科書・副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達と保育 育つ・育てる・育ち合う（教育図書） ・子どもの発達と保育 育つ・育てる・育ち合うワークノート 		
評価の観点	関心・意欲・態度	乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育などに関心を持ち、子どもの健全な成長を図ることを目指し意欲的に取り組んでいる。	
	思考・判断・表現	学習した知識と技術を活用して、子どもの健全な成長に関する諸問題解決を目指して工夫している。	
	技能	乳幼児の生活と保育に関する技術を身につけ、適切に乳幼児と関わるができる。	
	知識・理解	乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育などに関する知識を身につけ保育の必要性和意義を理解しているか。	
評価の方法	<p>定期試験：1学期期末、2学期期末、学年末</p> <p>実習・授業態度：実習や実習への取り組み・態度、実習時身支度など</p> <p>提出物：授業プリントの提出、製作物、課題、保育検定など</p> <p>これらを4つの観点に沿って総合的に評価します。</p>		

学習計画および評価方法 等

評価の観点：a（関心・意欲・態度） b（思考・判断・表現） c（技能） d（知識・理解）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
4	教科ガイダンス 第1章子どもの発達の特徴	・学習の意義、内容、方法、評価について理解する。	○			○
		・生涯発達における乳幼児期の重要性を理解する。				○
5		・発達と環境について思考を深める。		○		

6	第2章子どもの発達過程	<ul style="list-style-type: none"> ・発達観・児童観とはについて学び、自分の成長を振り返りながら発達観を考える。 ・身体発育と運動機能の発達について理解する。 ・乳幼児期のからだの発育について学び、保育人形を用いて重さや大きさなどを体感する。 ・人間関係の発達を学び、幼児とのかかわりに活かそうとする。 		○			○
7		<p>【保育検定4級】</p> <p>【保育実習】(夏期休業中)</p>	○			○	○
8	第3章子どもの生活	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康と生活について学び、保育人形を用いて世話をする。 					○
9		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの食事について理解し、子どものおやつを調理する。 				○	○
10		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの衣服について、必要な条件を考える。 		○			
11		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊びと生活について関心を持つ。 	○				
12		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康管理について理解する。 <p>【保育検定3級】</p>					○
1	第4章子どもの保育	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の意義と目標について理解する。 ・保育の方法を学び、発達段階に応じた保育の方法を考える。 					○
2	第5章子どもの福祉と子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の環境について自分の考えを深める。 		○			○
3		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの福祉について学び、関心を持つ。 ・子育て支援について理解をする。 	○				○

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
家庭	服飾手芸	2	2年 普通科・水産科選択科目 b

科目概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・刺しゅうや編み物などの手芸品を制作しながら、手芸に関する知識と技術を学習する。作品を実際に見たり触れたりすることで手芸の技法や特徴を理解する。 ・「自分らしいライフスタイル」を探求し、自分の生活をより良いものに作りかえていくための主体的な姿勢を身につける。 ・手芸品の製作を通して、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得し、服飾に活用する能力と態度を育てる。 		
教科書・副教材	親切すぎる徹底解説 一生使えるおさいほうの基本 (主婦の友社)		
評価の観点	関心・意欲・態度	手芸の技法に関心をもち、製作計画を立てて、意欲的に製作に取り組んでいる。	
	思考・判断・表現	機能と目的に合った被服材料・技法・用具について考え選択し、判断できる。	
	技能	製作に必要な技法を習得し、計画に従い能率的に製作を行える能力を身につけている。	
	知識・理解	製作の理論・技術について理解し、製作に必要な知識を身につけている。	
評価の方法	<p>評価は次の事項を、4つの観点に沿って総合的に評価します。</p> <p>①授業の出席状況や取り組む姿勢</p> <p>②課題等の提出状況やその内容 (小テスト等含む)</p>		

学習計画および評価方法 等

評価の観点：a (関心・意欲・態度) b (思考・判断・表現) c (技能) d (知識・理解)

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
4	科目ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の意義、内容、方法、評価について理解する。 ・手芸の種類と変遷について学ぶ。 	○			
5	<p>【パッチワーク】</p> <p>1. ミシンの使い方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生地扱い方、ミシンの使い方を理解する。 	○			○

6	2. 材料と用具 3. デザイン 4. 作品製作	<ul style="list-style-type: none"> ・端切れを用いて、パッチワークの技法を身に付ける。 ・クッションカバーを製作し、仕上げの技法について学ぶ。 			○	○
7	【刺し子】 1. 種類とその特徴 2. 材料と用具 3. デザイン 4. 基本的な刺し方の技法 5. 作品製作（花ふきん） 6. 仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・刺し子の特徴について学ぶ。 ・刺し子の材料・用具・図案について学ぶ。 ・刺し子の基本的な刺し方について実習を通して技法を習得する。 ・刺し子の刺し方の技法を活かし、手作りのあたたかみや楽しさ・豊かさを体感する。 ・仕上げの技法について学ぶ。 	○		○	○
9	【クロスステッチ】 1. 種類とその特徴 2. 材料と用具 3. デザイン 4. 基礎的な刺し方の技法 5. 作品製作 6. 仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・刺しゅうの特徴について学ぶ。 ・クロスステッチの材料・用具・図案について学ぶ。 ・クロスステッチの基本的な刺し方について実習を通して技法を習得する。 ・クロスステッチの刺し方の技法を活かし、手作りのあたたかみや楽しさ・豊かさを体感する。 ・仕上げの技法について学ぶ。 	○		○	○
10				○		
11					○	
12			○	○		
1	【編み物】 1. 種類とその特徴 2. 材料と用具 3. デザイン 4. 基礎的な編み方の技法	<ul style="list-style-type: none"> ・編み目の種類と特徴について学ぶ。 ・編み針と糸の関係について学ぶ。 ・編み目記号の見方と編み方について学ぶ。 ・編み物の基本的な編み方について実習を通して技法を習得する。 	○		○	○
2					○	○
3			○			○
				○	○	

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
家庭	服飾手芸	2	3年 普通科・水産科選択科目 d

科目概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・刺しゅうや編み物などの手芸品を制作しながら、手芸に関する知識と技術を学習する。作品を実際に見たり触れたりすることで手芸の技法や特徴を理解する。 ・「自分らしいライフスタイル」を探求し、自分の生活をより良いものに作りかえていくための主体的な姿勢を身につける。 ・手芸品の製作を通して、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得し、服飾に活用する能力と態度を育てる。 		
教科書・副教材	親切すぎる徹底解説 一生使えるおさいほうの基本 (主婦の友社)		
評価の観点	関心・意欲・態度	手芸の技法に関心をもち、製作計画を立てて、意欲的に製作に取り組んでいる。	
	思考・判断・表現	機能と目的に合った被服材料・技法・用具について考え選択し、判断できる。	
	技能	製作に必要な技法を習得し、計画に従い能率的に製作を行える能力を身につけている。	
	知識・理解	製作の理論・技術について理解し、製作に必要な知識を身につけている。	
評価の方法	<p>評価は次の事項を、4つの観点に沿って総合的に評価します。</p> <p>①授業の出席状況や取り組む姿勢</p> <p>②課題等の提出状況やその内容 (小テスト等含む)</p>		

学習計画および評価方法 等

評価の観点：a (関心・意欲・態度) b (思考・判断・表現) c (技能) d (知識・理解)

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
4	科目ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の意義、内容、方法、評価について理解する。 ・手芸の種類と変遷について学ぶ。 	○			
5	【パッチワーク】 1. ミシンの使い方	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生地扱い方、ミシンの使い方を理解する。 	○			○

6	2. 材料と用具 3. デザイン 4. 作品製作	<ul style="list-style-type: none"> ・端切れを用いて、パッチワークの技法を身に付ける。 ・クッションカバーを製作し、仕上げの技法について学ぶ。 			○	○
7	【刺し子】 1. 種類とその特徴 2. 材料と用具 3. デザイン 4. 基本的な刺し方の技法 5. 作品製作（花ふきん） 6. 仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・刺し子の特徴について学ぶ。 ・刺し子の材料・用具・図案について学ぶ。 ・刺し子の基本的な刺し方について実習を通して技法を習得する。 ・刺し子の刺し方の技法を活かし、手作りのあたたかみや楽しさ・豊かさを体感する。 ・仕上げの技法について学ぶ。 	○		○	○
9	【クロスステッチ】 1. 種類とその特徴 2. 材料と用具 3. デザイン 4. 基礎的な刺し方の技法 5. 作品製作 6. 仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・刺しゅうの特徴について学ぶ。 ・クロスステッチの材料・用具・図案について学ぶ。 ・クロスステッチの基本的な刺し方について実習を通して技法を習得する。 ・クロスステッチの刺し方の技法を活かし、手作りのあたたかみや楽しさ・豊かさを体感する。 ・仕上げの技法について学ぶ。 	○		○	○
10				○		
11					○	
12			○	○		
1	【編み物】 1. 種類とその特徴 2. 材料と用具 3. デザイン 4. 基礎的な編み方の技法	<ul style="list-style-type: none"> ・編み目の種類と特徴について学ぶ。 ・編み針と糸の関係について学ぶ。 ・編み目記号の見方と編み方について学ぶ。 ・編み物の基本的な編み方について実習を通して技法を習得する。 	○		○	○
2					○	○
3			○			○
				○	○	